令和6年 飯田市教育委員会10月定例会会議録

令和6年10月16日（水） 午後 3時23分開会

【出席委員】

教育長	熊谷 邦千加
教育長職務代理者	北澤 正光
教育委員	三浦 弥生
教育委員	野澤 稔弘
教育委員	林 綾子

【出席職員】

教育次長	秦野 高彦
学校教育課長	福澤 好晃
学校教育専門幹	北澤 孝郎
生涯学習・スポーツ課長	後藤 武志
文化財保護活用課長兼考古博物館長	下平 博行
市公民館副館長	上沼 昭彦
文化会館館長兼新文化会館整備室長	筒井 文彦
中央図書館長	瀧本 明子
美術博物館副館長	榎村 洋介
歴史研究所副所長	牧内 功
学校教育課長補佐兼総務係長	松下 弘毅
学校教育課長補佐兼教育企画係長	倉田 奨

日程第1 開 会

- 教育長（熊谷邦千加） それでは時間が過ぎておりますので、始めさせていただきます。
- それでは、令和6年飯田市教育委員会10月定例会を始めさせていただきます。
- これより本日の会議を開きます。

日程第2 会期の決定

- 教育長（熊谷邦千加） 日程の第2、「会期の決定」。
- 会期の決定を議題といたします。本日10月16日の1日というふうにしたいと思いますが、ご異議ございませんか。
- （「異議なし」との声あり）
- 教育長（熊谷邦千加） ご異議なし認めます。
- では、次の日程に進みます。

日程第3 会議録署名委員の指名

- 教育長（熊谷邦千加） 会議録署名委員として野澤稔弘教育委員さんを指名いたします。
- 教育委員（野澤稔弘） はい、承知しました。
- 教育長（熊谷邦千加） よろしくお願いします。

日程第4 会議録の承認

- 教育長（熊谷邦千加） 続きまして、日程第4、「会議録の承認」。
- 9月の定例会の会議録につきましてご承認をいただきたいと思いますと思いますが、原案を皆さんのところへお送りしてございます。内容につきまして何かご異議等ございましたらご発言いただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。
- （「異議なし」との声あり）
- 教育長（熊谷邦千加） ご異議なしということで承認をされました。

日程第5 教育長報告事項

- 教育長（熊谷邦千加） 続いて日程5、「教育長報告事項」。
- お手元に配布しました1枚表裏の資料のほうを御覧ください。
- 本当は文字だけだと分かりづらいと思うんですが、10月9日の水曜日に、山形県の天童市にあります天童中部小学校の公開研究会というところに視察に行っていました。

テレビ番組の「学校のみらい」で1月に報道をされて紹介された学校でございます。

子ども主体とした授業を行い、特徴がある取組をされていて、不登校がないという小学校であります。規模としたら学年3クラス 30 数名いますので、それなりの大きさではありませんが、天童市自体は3万人の市でございます。

そこでは単元内自由進度学習、これマイプラン学習と呼んでいましたが、その授業の公開、それから個人総合なんですけども、「フリースタイルプロジェクト」という言い方をしていました。

そして、児童だけが自分たちで進めている自学自習、そして午後の5時間目は、「先生が子どもたちと一緒に授業する仲間と先生がつくる授業」の公開をされておりまして、そのテーマは「学び続ける子供の育成～子どもの理解に基づくアプローチ～」ということが研究主題で、令和4年からは、天童市の教育委員会から委嘱を受けて研究推進しているということでもございました。

最初に四・五・六年生によりフリースタイルプロジェクト、つまり個人総合、個人の課題を決めて個人で進めるというそういう授業でした。例えば、どんな課題を持ってやっているかということ、そこにありますように「けん玉で級位認定表の一級までできるようになるろう」という四年生であったりとか、「折り紙で難しいものをたくさんつくろう」という五年生であったりとか、「アニメやマンガ等のキャラクターを魅力的に描く」という六年生のテーマだったりとか、ということなんですけども、一人一人が自分でやることに集中して取り組んでいるという姿が見られました。

ずっと習字をやっている一人の子もいます。ですので、教室だけじゃなくてフリースペースとか調理室とか理科室とかいろいろなところを使って、むしろ教室でやっている子のほうが少ないみたいな学級も見えました。中には「ネイルをやりたい」という子が、おうちから紙袋にネイルの道具を持ってきて、ネイルの研究を課題としてずっとやっているという課題もある。要するに子どもたちがやりたい課題や願いを、具現するような活動ということでもやっていました。

それから2つ目は、マイプラン学習ということで、これは一年生から六年生まで公開されていましたが、単元内自由進度学習という形で、先生方がつくっている学習の手引きを基に、基本的には学習プリントに手引きも書いてありますので、いろんな種類の学習プリント等使って一人で学習を進められるようになっていて、先生方の教材準備が素晴らしいです。ただプリントがあるだけではなくて、教室の壁、廊下の壁、この辺の学校でいきますと、子どもの作品が展示されてますけど、あそこには全部どうやって学習を進めるのか

っていう学びの進め方の展示や参考資料が本当、隙間ないぐらいに、廊下の床面もそうですが、そこにも貼ってあります。学習が单元内自由進度学習、手引きに沿ってやっていると、早い子は先に終わっちゃうわけですね。そうするとさらにチャレンジ問題みたいなのも先生方が用意して、常に一人になってどんどん自分のペースで進めていかれるっていう、そういう教育環境がある。非常によくできているなって思いました。

中には確率の勉強しているんですが、紙飛行機を使って飛びしてどこまで飛ぶのかっていうこと繰り返し実験的にやるとか、ボールを使ってペットボトルに水入れたところに転がして、それを倒して何本倒れるのかっていうこと全部こう記録して、その記録を基に学習進めていく。つまり、穴埋め的なのは最初の基礎的な学習の最初の段階ではそういうものもありますが、あとは学習のプリントは自分で調べたり体験したりしながら進めていくってような内容に、全校で取り組んでいるということです。

さらに、自学自習っていう場面では、子どもたち前に2人学習リーダーが座っていて、その2人は板書する子どもたちがいて、自分たちで例えば計算問題の答え合わせをやったり、その答えについて発表した子どもが自分で行って黒板に書いたりして進めていました。複式学級の授業は、この飯田市でも千栄小学校とか和田小学校とか、それから上村小学校でもやっているんですが、複式の場合は同じ教室で2つに分かれて子どもたちが学習リーダーやっています。あれを教室全体で、30何人でやっているっていう、そういうスタイルでありました。

一番貴重だったのは、これをそもそも6年前からスタートした大谷校長先生っていう、今はもう大学の講師をされていますけれども、その方のお話でした。「そもそもなぜこれ始めたかって考えたときに、どうやったら子どもの力を高められるのかっていう、そこから考え始めていて、子どもたちに力をつけられるならば、何をやっちゃいけないという反則はない」とこういうお考えで、「今までの一斉授業の教える授業から子ども自体が学ぶ自由度高めたい」というようなお話を。ですから、「それは一斉指導よりもっと上をいきたいんだ」と。「教科の本質に迫るような学びを子どもたち一人一人にさせたい」そのために環境も科目もいろんなものを充実させてます。例えば算数でかさの勉強をすると、水、ブルーシートを敷いた上にテーブルがあって、そこにいろんなペットボトルに水があって、「実際にかさの実験を一人一人ができるように、そういう環境を整えている」というお話でした。

最近は小学校低学年の不登校が増えていて、よく一年生の低学年の授業へいくと「はい、お口チャック」とか、この辺でもありますけど、背中がピン、手は膝の上、そういう学習をしつけるという意識が強いことがあるんですが、「そういったものは子どもの学びとマッ

チしない」と。「今の子どもに不登校になるのは、今の子どもに問題があるんじゃないで、形から入ろうとする学校にその子どもたちを受け入れるシステムはない」っていうようなこともおっしゃってました。

「子どもが勉強すればいいんであって、子どもが真剣になるにはどういう学びになるかということで、どういう学びを保障されるかが一番大事なことはないか」ということとか、「子どもの事実をもとに、こういう子どもを目指していくということしっかり持って行く」っていうお話もありました。

「こういった学びは全体の2割、つまり週2時間程度の割合で行っている」と。ちょうど見させていただいたのは「9回目」って書いてあるマイプラン学習等もありましたので、あるいはフリースタイルもありますので、一つの一括りの締めくくりの辺りのところだったかなというふうに思いますが、量的には「ちょっとこれ以上やると子どもたち自身だけで進めるのは難しい」っていうようなこともおっしゃっていて、「ああ、なるほどな」と思いました。

そのほか運動会も止めて、春と秋にスポーツの記録を取るようにして、「見せるための運動会じゃなくて、子どもの体力を向上するためにやっている」というようなことで、基本貫いているのは「子どもにためになることを実践するんだ」ということでした。

非常に刺激をいただいてまいりましたが、学校全体で取り組んでいくことと、きちんと説明や段取りを踏まえてやってきていらっしゃるなということも感じたところでもあります。

参観者が大体500人ぐらいで全国北海道・沖縄からみえていました。500人っていうのは伊那小も大体毎年500人ぐらいは参観に来ますので、長野県からは20人くらいですかね、信大の教職員大学院の伏木先生も何人か、学生といっても現場の教職員ですけれども連れて参観に来ていました。長野県の人数は、割と近隣からすると多いかなというふうに感じました。

さらに菱田春草の生誕150周年記念特別展の開幕式に参加させていただいて、ちょうどこのときには、お孫さんに当たる笹本千草さんがご出席をいただいて、その思いをお聞きすることができました。

笹本さんから「こういう菱田春草の取組を検証している機会つくっていただいた。ありがたい」っていうようなお話もいただきました。また、ここの中では、目の病気で一番菱田春草が苦しいときにそれを助けた秋元洒汀さんへの感謝の思いだったりとか、秋元さんの娘さんの松子さんに絵の描き方の指南をしている手紙等も大変興味深いなあというふうに思います。ぜひまた御覧をいただければなと思います。

それから今田人形の秋の例祭の宵祭りろうそく公演というのを招待いただいて行ってまいりました。

人形劇フェスタでも公演をいただいでいて、4つの演目をご披露いただいたんですが、いずれにしても太夫と三味線、人形遣いが一体となり見事な素晴らしい舞台を拝見いたしました。

昨年までは竜峡中学校の人形劇部の公演があったんですけども、やはり部活の地域移行ということで改めて募集をしたんだけど、希望する生徒がおらず、出演ができなかったというようなことがございました。地域クラブ移行はしかたない流れなので、なんとか逆に今度は地域の皆さんと中学生と一緒に人形浄瑠璃をつくっていくような形になるというのを感じたところではございます。

あとは風越山トレイルマラソン大会ということで、70回を記念して名前を変更した大会が400人弱の参加者、ゲストランナーの2人の方、ニッチローさんも含めて非常に大会を盛り上げていただきました。何より天気がよかったので、とても充実した大会になったかなというふうに思います。

今回の特徴は、頂上付近にある白山社まで登りたいという応募の方が増えたということ。逆に小中学生、高校生も含めてその参加者数が若干減ってしまったというようなことがございました。

これから小中学生、具体的にスポーツに関わる体づくりをどうやって進めていくか、今も試行錯誤を考えていただいているわけですが、これからどういうふうにしていくと子どもたちのスポーツ環境が整えられ、また体力向上にも常につながっていくかということを考えていく必要があるかなということを感じた次第でございます。

ちょっと長くなってしまってますみません。私による報告については以上でございますが、何か皆さんのほうからご発言ございましたら、いかがでしょうか。

(「ありません」との声あり)

○教育長(熊谷邦千加) ありがとうございます。

日程第6 議案審議(3件)

○教育長(熊谷邦千加) では続きまして、日程の第6、「議案審議」に入りたいと思います。

議案第57号 「飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針～第1次～」を定めることについて

○教育長（熊谷邦千加） 議案第 57 号、「『飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針～第 1 次～』を定めることについて」議題といたします。

議案の説明をお願いします。

福澤学校教育課長。

○学校教育課長（福澤好晃） それでは、議案第 57 号、「飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針～第 1 次～」を定めることについて、4 ページになります。

こちらは、昨年度令和 5 年 5 月 25 日に、「飯田市これからの学校のあり方審議会」を組織いたしまして、飯田市立小中学校のこれからの配置・枠組みのあり方について、特色と魅力ある教育活動のあり方についてを諮問し、今年、令和 6 年 4 月 11 日に同審議会より飯田市の学校を取り巻く教育環境の変化への対応に必要な方策について、第 1 次答申をいただきました。

その審議会からいただきました第 1 次答申を踏まえまして、今年度、飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針について、審議会等で議論・検討を行うとともに、パブリックコメントを求め、また 20 地区の地域協議会で意見聴取を行い、いただいたご意見等を反映させ、また、先般のこの教育委員会協議会でもお示をし、ご意見をいただいて作成いたしましたものがお手元にお配りをしております別紙でございます「飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針～第 1 次～（案）」でございます。

こちらの別紙は、現在の飯田市立小中学校を取り巻く背景踏まえまして、今までの特徴的な取組と課題を統括し、今後の学校のあり方として現在の中学校区単位のまとまり基本とした飯田学園構想をお示しし、「特色ある教育」をどのように進めていくか記載するとともに、今後の検討の方向性が記載されたものとなっております。

この飯田市これからの学校のあり方審議会で審議・作成され、また「飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針～第 1 次～（案）」につきまして、1 次方針として定めてまいりたく、議案上程いたしますのでよろしく願いいたします。

私からの説明は以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） これまで長きにわたって審議会等でご審議をいただいて、最終的な案ということでございます。

この件につきまして、質疑はございませんでしょうか。

北澤正光職務代理。

○教育長職務代理者（北澤正光） お願いということになるかと思えます。ここまで丁寧に進めてきていただいて、私たちはその都度説明もいただいているので分かっていますし、飯田

市のこれからの学校のあり方に関して、学校規模が様々違う9中学校区があるのですけれど、その全てのところを学園構想という形で進めていくということについても、分かっているつもりでいます。

ただ、地域の皆さんとか、特に保護者の皆さんのところで、十分これをご理解いただけているかなということを見ると、まだまだかなというのが自分の周りで接する保護者の皆さんや地域の方々の現在の様子だというふうにも思っています。

したがって、結論から言うと、当然今後のことになるかと思うのですが、特に保護者の皆さんにこの学園構想のことをさらにきちんと伝えていかなければいけないと思います。「H a g u」等で伝えるというような話も聞いてはいるのですが、「H a g u」だけではなくて、今、教育委員会から出かけていってまちづくりの皆さんや、学校運営協議会等ではかなり説明をさせていただいているということも承知はしているのですが、さらに保護者の皆さんに、あまねく届く方法ということを考えていかなければいけないというふうに思っています。

今後のことで半分要望と言いますか、そんな思いでお伝えさせていただきます。

○教育長（熊谷邦千加） このことについて、補足はございますか。

福澤学校教育課長。

○学校教育課長（福澤好晃） 貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。

P T A保護者の皆様方にも、役員等の皆さんを通じまして、機会をそれぞれ設けていただきながら説明会等進めております。また、教職員の皆様方にも、中学校区単位で来月から説明をさせていただくなど、丁寧にご説明を申し上げながら進めてまいればと考えております。

ご意見いただきましたので、そちらも踏まえて進めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） さらにご質問ご意見ありましたら、お願いいたします。

じゃあ、林教育委員。

○教育委員（林 綾子） 質問というか、これからの期待というかなんですが、最後のほうで書いてあります特設教科についてです。これから令和7年度に学園構想が始まってから、また、学校・地域・家庭で連携して学習内容を検討されるということで、重要な取組を開始されるというふうにあります。これは、内容的には今までやってきたキャリア教育の一環でしたり、いろんなことがあるのかなと思いますが、新しい取組なども出てくるのかなということで、今後ご紹介いただけるのもちょっと楽しみにしております。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） 福澤学校教育課長。

○学校教育課長（福澤好晃） ご意見をいただきありがとうございます。

それぞれ9つの学園ごとを一斉にということではなく、多分遠山のように、2園3校のグランドデザインが既にあるところに関しては、他を先行して進めていくという状況も考えられますので、それぞれの学園ごとの進捗等につきましても、引き続き教育委員会定例会等でご報告を申し上げながら進めてまいりたいと考えております。よろしく願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） さらにいかがでしょうか。

北澤職務代理。

○教育長職務代理者（北澤正光） もう1点、さっき申しましたけれども。

この間、南信州新聞にこれに関わっての報道がありました。県の教員の配置について、「こういった教育を進めることができる、こういった教育進めることに意欲持っているという教員を、優先的に配置していただくようなことについて、県のほうへ飯田市として手を挙げる」といった内容の報道がされていたかと思うのですけれど、そういうことを進めるために、教員をある程度意図的に集めるといところはどんなふうになっているのでしょうか。

○教育長（熊谷邦千加） 北澤学校教育専門幹。

○学校教育専門幹（北澤孝郎） つい先だって、県の教育委員会のほうから、いま職務代理がおっしゃったとおり、地域の特徴的な教育、あるいはこんな形で学校をつくっていきたいというところに、確かおおむね10名ほどの教員を重点的に配置していただけるっていうことで通知がまいりました。ただ、全県で約10人ぐらいということですので、どこが選ばれるか分からないんですが、募集の仕方が学校単位ではなくて、必ず市町村教育委員会と相談しながら提出するということになっておりました。

教育委員会としましては、やはりこのあり方、基にした新しい学校をつくっていきたいと思っておりますので、今後協議を短時間でやりまして、飯田市教育委員会としても県のほうに申込みをして、ぜひそういう方をぜひこちらに来ていただけるように対応していきたい、そんなつもりでおります。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） もう一つ、特色ある学校づくり。全県で特色ある教育に募集をかける全県の教員にですね。そこらにも小中一貫の学園構想で、特に中山間地等で意欲持ってと

いう取組したいという教員を求めるということで、各市町村で挙げていますが、そこにも挙げさせていただいて、一般にも募集していくということも進めております。

さらにいかがでしょうか。

この方針案につきましては、特にご異議はございませんか。

(「異議なし」との声あり)

○教育長(熊谷邦千加) それではご異議なしというふうに認めますが、これより採決に入ってよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長(熊谷邦千加) それでは、議案第57号を採決いたします。

本案を原案のとおり決定することについて、ご異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

○教育長(熊谷邦千加) ご異議なしと認めます。

議案第57号は、原案のとおり決定をされました。

今いただいたご意見は、今後にもまた生かしてまいりたいというふうに思っております。

議案第58号 飯田市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則の制定 について

○教育長(熊谷邦千加) 続きまして、議案第58号、「飯田市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則の制定について」議題といたします。

議案の説明をお願いします。

福澤学校教育課長。

○学校教育課長(福澤好晃) それでは議案第58号、飯田市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則の制定について、5ページをお願いいたします。

こちらの提案理由でございますが、5ページの下段です。

提案理由は、令和7年4月からのスタートを目指す学園構想において、義務教育9年間の学びの系統性と連続性を高め、今まで以上に子どもたちの学びの環境を充実させるということ目指しております。

遠山郷学園におきましては、既に2園3校のグランドデザインを策定し、特色ある教育活動を進めている中で、小規模特認校制度を活用しました上村小学校の児童が、遠山中学校でも一貫して教育が受けられるよう、遠山中学校の小規模特認校の指定を行いたいというものでございます。

改正の内容につきましては、新旧対照表でご説明を申し上げますので、次の6ページを御覧ください。

改正の部分には、アンダーラインを引いておりますが、小規模特認校制度に係る指定の変更等、第4条第1項の「小学校就学予定者の保護者又は学齢児童の保護者（小規模特認校の通学区域に住所を置く者除く。以下この条において同じ。）」を改正後（案）でございますが「小規模特認校の通学区域外に住所を置く保護者等（次条第1項に規定する保護者等除く。）」というものに改めたいというもの。

それから第2項でございますが「小規模特認校に入学し、又は就学させること希望する小学校就学予定者の保護者又は学齢児童の保護者」を「前項に規定する希望する者」と改めたいということ。

それからもう1点が第4項でございますが、「飯田市立上村小学校」の後に「及び飯田市立遠山中学校」を加え、改めたいとするものでございます。

お戻りいただきまして、5ページでございますが、附則は、施行日を11月1日からとしたいものでございます。

私からの説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） では議案第58号につきまして、質問ご意見等ございましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか、特にご異議ございませんか。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） それではご異議なしと認めます。

それでは議案第58号を採決いたします。

お諮りいたします。

議案第58号、原案のとおりを決定することに、ご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

それでは、議案第58号は、原案のとおり決定をいたしました。

議案第59号 飯田市立小学校及び中学校の通学区域に関する事務取扱要綱の一部改正について

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして、議案第59号、「飯田市立小学校及び中学校の通学区域に関する事務取扱要綱の一部改正について」を議題といたします。

議案の説明をお願いします。

福澤学校教育課長。

○学校教育課長（福澤好晃） それでは、議案第 59 号、飯田市立小学校及び中学校の通学区域に関する事務取扱要綱の一部改正についてでございます。

7 ページをお願いいたします。

提案理由は、飯田市立遠山中学校の小規模特認校指定による「飯田市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則」の一部改正に伴いまして、事務取扱要綱において対象者の箇所を改正したいものでございます。

改正内容を新旧対照表でご説明申し上げますので、次の 8 ページをお願いいたします。小規模特認校制度における指定の変更第 4 条第 1 第 1 号の「全学年児童」を改正後は「就学予定者又は学齢児童若しくは飯田市立上村小学校卒業予定の学齢児童若しくは飯田市立上村小学校を卒業した学齢生徒」と改めたいとするものでございます。

議案にお戻りいただきまして、7 ページ、附則は施行日を 11 月 1 日からとしたいものでございます。

説明は以上でございます。よろしくをお願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） ただいま説明がありましたこの件につきまして、ご質問ご意見がございましたらお願いします。

北澤職務代理。

○教育長職務代理者（北澤正光） この 59 号に関しては、原則はこういうことかなというふうに思います。現在も、特認校でなくても、そのお子さんの人間関係とか様々な状況で、本来であれば指定された学校に通学するところですが、それが苦しいということになったときに、その状況を考慮しながら、指定の学校ではない学校への転校等を柔軟に認めているという状況もございますよね。なので、この 59 号は 59 号のとおり決めごとだというふうに思いますけれど、今後において、この上村小学校の特認校にいたお子さんではないけれど、市内のお子さんで様々な状況から、例えば遠山中学校へ転校したいというようなご希望があった場合は、市と保護者や学校とで協議の上で、それが最適だというふうに判断されれば、転校できるという、これとは全く別の枠のことだと思うのですが、そういうことは従来どおり可能であるというふうに受け止めてよろしいでしょうか。

○教育長（熊谷邦千加） 福澤学校教育課長。

○学校教育課長（福澤好晃） こちらの資料がなくて大変申し訳ございませんが、この事務取扱要綱の第 3 条には、第 3 条第 1 項第 9 号には、「教育的配慮からやむを得ないと教育委員会が認めた場合には変更ができる」と、定めておりますので、その辺りはまた状況等に応じ

て柔軟に対応していくということが必要であると考えておりますので、そのような受け止めで結構です。よろしくお願いいたします。

○教育長職務代理人（北澤正光） ありがとうございます。

○教育長（熊谷邦千加） さらにいかがでしょうか。

質疑はございませんかね。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） 質疑なしということで、ご異議はございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい。

では採決に入りたいと思います。

本案を原案のとおり決定することに、ご異議はございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） 異議なしと認めます。

よって、第 59 号の議案は、原案のとおり決定をされました。

次の日程に進みます。

日程第 7 協議事項

○教育長（熊谷邦千加） 日程第 7 「協議事項」。

これより協議に入ります。

本日は、予定された協議はございませんが、協議議題等がございますでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） なければ、次の日程に進みます。

日程第 8 陳情審議

○教育長（熊谷邦千加） 日程の第 8、「陳情審議」。本日は、陳情審議はございません。

日程第 9 その他

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして日程の第 9、「その他」。

(1) 教育委員報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （1）「教育委員報告事項」。

初めに、教育長職務代理者、教育委員の皆様方からご報告がございましたらお願いをいたします。いかがでしょうか。

じゃあ、三浦委員さんからお願いします。

○教育委員（三浦弥生） お願いいたします。

2点、1点目は教育課程研究協議会ということで、この10月11日の日に龍江小学校へ理科の教育課程の研究会ということで行ってまいりました。

内容としましては、理科でして、流れる水の働きで土地の侵食だとか運搬だとか堆積ということを学ぶということだったです。

実際に土から川をつくりまして、それぞれのグループで水を流して演習ということだったですけれども、とても私が見ておりましたが、興味深い授業だったかなとそのように思っています。

一つには、やはり実際に見に行った自然が近くにある龍江という土地柄でして、清水川といいましたか、近くの実地の川を実際に見ていて、川は実際にどんなふうになっているのかな。石がゴツゴツしているとか、大きな石があった、下の砂があったとかいうところを実際に見ているということで、自然のものと触れ合えるというそういった環境、自然のものをみてからそういった学びに入るという、そういった工夫がされていましたし、また、そういうことができる学習環境にあるんだなというところも感じました。

また、実際に教材使って水を流して、そこからどんなふうに川の砂が運搬されて堆積していくか、浸食されていくかというところを見るわけですけれども、子どもたちから「おっすげえ」とかそういった本当に言葉が出ていたり、誰からも言われなくても観察記録を書く子どものなんか姿見えていますと、やらされているのではなくてやりたい気持ちを持ってやってるんだなという、そんな姿を見ることができました。

これは、いろいろな先生方もいろいろ研修会の中で発言されていたことですが、そんな姿が見られまして、総合教育会議の折にも「ムトスの学び」ってどういう学びだろうなっていうところのテーマがあって話をしたわけですが、実際にその子どもがやってみたい、やりたいっていうような、そういうところをしっかりと捉えたそういう学習のことにつきまして、先生方がそういった研究協議会で学んでくださっているなというところを感じました。

また、先生方の話し合いの中からは、「そういったタブレットを使ったらどうか」というような意見の話もありまして、「前回やった内容をもう一回やってみよう」「じゃあ今回の

やった内容はどうかな」ということで、2回、前回やった内容でも一度実験するといった場面があったんですが、そういったところはタブレットで動画を撮って、実際に目の前で観察もまた再確認してから、「今度はこういう実験をしようね」といった観察に入っていったらいいかなということ、そういった今あるそういったタブレットも有効活用していけばいいなど、そんなような話し合いがなされていたかと思います。充実した研究協議会の内容を見させていただいております。

2点目は、冒頭、教育長の話の中でもございましたが、菱田春草生誕150周年記念の特別展ということでして、教育長が行かれた5日の翌日6日に学生8人と一緒に行っていました。

四季山水ということで、秋元洒汀に感謝の気持ちを込めて贈ったということで、その下絵からずっと作品になるまでの過程の作品展示が今回ありまして、菊慈童がないなということで寂しいなって話を以前させていただきましたが、普段見られない四季山水というものを作成過程からずっと見ていくことができました。

贅沢にも学芸員の小島先生に学生たち解説をいただきまして、一通り見るのができたという貴重な時間をいただいております。

また、下伊那教育会館にあります秋元洒汀先生、春草の書簡碑といったものが下伊那教育会館の外の庭にあるかなと思うんですが、そこにも学生たちも行かせていただきまして、少しそういった時代に触れさせていただいたり、また生誕の地も訪れさせていただいたり、あと柏心寺にも寄らせていただいて、菱田春草お墓にも手を合わさせていただいたということもさせていただきましたが、ちょうど柏心寺に行ったときに岐阜の方、ご夫婦がみえておりまして、やはり菱田春草のお墓参りということのようでしたが、美博に寄られた後に来ていると。岐阜からということで少しお話をさせていただいたりというそういった機会にも恵まれました。

先ほど協議会の折に、美博の関係の計画の意見を少し求められたかなあなんていうふうにあります。美術博物館、先ほどその計画、飯田市美術博物館2028の後期計画の素案ということでしたが、そこにあります資料の中のアンケートに、お母様方から「飯田動物園のように子どもが楽しく利用できるような、また美術博物館になったらいいな」みたいに、ちょっとそんなアンケート結果があったかなと思うんですけれども、美術博物館、菱田春草の絵を見るときはやっぱりああいうところは静かに見るのかなというところは、どこの美術博物館に行っても一緒なのかなと思いますが、見ているときに男性の方が2人いらっしゃって、やはりお話ししながら見ていて「お静かにお願いします」とやっぱり係の方に言

われて「いやいや失敬、失敬」っていうような形でしたし、女性の方が4人くらいで入って見えれば、やはりそこで「あっこれがそうなんだ」ってお話になって、やはり「声を落としてください」みたいなお話になったりしていました。

やはりそういう場所なんだよなということは重々承知の上ですけれども、やはり子どもさんたちやお母さんたちといますか、そういった市民の人たちが気楽に見られるっていう、少し子どもたちが「わあ、この絵すごいね」とか「これこうなんだよ」っていうようなそういうような会話があったり、例えば少し音楽が流れていて解説の言葉が聞こえてきたりと、そういった環境の日程を少し取っていただいても、そういったところで気楽に利用できるのかなんていうことを、先ほど少し基本計画の中のアンケートなんかをちょっと見させていただいたのと、自分は学生たちと利用させていただいたときのちょっと感想から感じるところもございました。

2点です。以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

林委員さん。

○教育委員（林 綾子） 私ちょっとたくさんですみません。4点ほど報告させていただきます。

まず、9月19日に上郷小学校に主管指導主事の帯同ということで学校訪問させていただきました。ちょうど改築を進めている3年かけての1年目ですので、本当に一部だけなんですけれども、改築がちょうど一部分終わったところも見せていただいて、校長室と職員室、あるいは保健室の辺りなんですけれども、大変、職員の方も棚の充実ですとか、あとは動線のよさ、保健室からその子と親の相談室というお部屋、それから中間教室までは緩やかにつながっているような形で、動線のよさと木の温もりみたいなものを感じました。

学校全体としては、子どもたちも落ち着いて、また職員の皆さんコミュニケーションがよく取れている様子も感じられました。

改築の関係で夏休みが長かったということで、夏休み明け、若干行き渋りみたいなことも見えていたようなんですけれども、先ほど申し上げました保健室からその子と親の相談室というところ、それから中間教室といろいろ場がありまして、養護教諭の方が中心となりまして、ちょっと教室にすぐ入れない場合でも保健室を使ってみたり、あるいは少し時間がたったら、子と親の相談室のほうへ行ってみたい、それでもちょっとっていうことであればみたいな形で、柔軟にいろいろな対応ができていらっしゃるというのが、またあと各学校で取り入れている tetoru で毎日、お子さんの出席状況を確認しながら、今日は何人ぐらいこういう状況だからこのお子さんはこちらでとか、そういったことが柔軟に対応

できている様子が見られました。

また、特に養護教諭の方が中心となって不登校支援ということで、不登校のお子さんの親の会というのをやっていらっしゃるといふことで、これもとても取組として素晴らしいなというふうに思いました。親子で工作をして、またその後、親だけでちょっと話を分かち合う、気持ち分かち合う機会があったりするそうで、そこがとてもいいな、素晴らしい取組だなというふうに聞かせていただきました。

一部要望ということでお聞きしたのでお伝えしますが、今回の改築で改善されるような部分もあるかと思いますが、念のためというか、一応お聞きしたのでお伝えしますが、「保健室のほうにWi-Fi環境がない」といふこと。あとは「保健室用のタブレットがあるといいのにな」といふこと。あとは「給食関係のお部屋で調理室にはエアコンあるけれども、下処理室や栄養教諭の部屋にはエアコンがないんです」といふことで、「ちょっと大変です」といふお話をちょっと伺いました。

また、一つ気になったというか、今、上郷小学校のほうでも取り組んでいらっしゃるようですが、中学校のほうでは朝部活というものが、今完全にだと思いがなくなってきている状況であるんだけど、小学校の合唱団や金管のクラブというのには朝活動というか朝練習みたいなものがまだ残っている状況ですが、「やはり勤務時間外ということになるので」といふふうにおっしゃっていました。「勤務時間外という活動がなるべくないほうがありがたいのかな」といふことをおっしゃってまして、徐々に夕方に持っていくような、「ちょっとホームルームの時間などを調整して、徐々に夕方に持っていく形にしています」といふふうに伺って、この辺り他の小学校もどうなのかなということでは私自身は気になったところです。

全体的に本当に職員同士とてもコミュニケーションを取られて、一生懸命取り組まれている様子で、参観のほうも落ち着いた様子のお子さんたちを拝見できました。

2点目は、9月22日の日曜日に中央図書館のほうで「源氏物語に親しむ」といふ講座のほう、個人的に出させていたがまして、ちょうど大河ドラマの大変よい影響で満席状態でした。またその中でも、ちょうどドラマの「今晚これが放送されますから」みたいなシーンを紹介していただいたり、最後全員で音読なんかしたりみたり、大変1時間30分が短く感じられるような、とても素敵な講座だったなと思いました。

帰り道、歩いているところで、ほかにも出ていらっしゃった方が、「もう何十年ぶりに古典というものを読んだ」といふようなことおっしゃってまして、タイミングとかがぴったり合えば、そういった形で今まで親しみがなかった方にも伝わる講座開けるんだなという

ことを感じさせていただきました。

引き続き3点目です。

10月5日が予定でしたが、延期になりまして10月6日日曜日、浜井場小学校の運動会に参加させていただきました。運動会の最初のところで校長先生が「本気で取組、本気で楽しみましょう」というふうに挨拶をされまして、そのとおり浜井場小学校、大変少人数ではありますが、リレーや団体競技など見ごたえのある内容でありました。また、借り物競争っていうの、多分去年ぐらいから始まったんですが、座席、保護者席に向かって「昔、委員長やった方」とか「何々町の方」とかっていう形で児童が紙を持って回って、「はい、はい」って、手を挙げて観覧席からみんなが連れてかれるという形で、保護者や地域の方も楽しく参加する雰囲気のとていい運動会を見せていただきました。

4点目、最後です。

10月11日金曜日に丸山小学校で行われました教育課程研究協議会に参加してまいりました。

2年3組の特別活動ということで、健康教育をテーマにしておりましたので、養護教諭や栄養教諭の方が80名以上も参加されました。大変賑やかな会場でした。

今回、給食の残食をなくしたいという子どもたちの願いから始まった授業で、全体8時間のうちの7時間目になると思うんですけども、残食をなくするためにはというところから始まりましたが、よくかめていなくて残食が多いのではというような展開をして、飯田短大の安富先生の話をお聞きしたり、いろいろな専門家の歯科衛生士さんのお話などもお聞きしたところを経て、今回の授業では、子どもたちが選んだよくかんで食べたい食べ物4種類を30回かんで、味の変化や飲み込みやすさを評価していくというような内容でした。

選んだ食材が、フランスパン・ピーマン・大豆・りんごということだったんですが、自分たちが一番食べたいものをまず一番に食べようということだったそうで、フランスパンを結局選んだお子さんがほとんどで、ピーマン・大豆は一人ずつでした。りんごが数人。

ただ、フランスパンっていうのがちょっと大きさが大きめでして、二年生の子どもは30回ではどうしても飲み込めない状態だったりとか、そういう様子も見られたんですけども、子どもたちが真剣にお友達がかんでいる様子を真剣に見るっていう授業でした。

最終的には、よくかむことのよさを気づいてほしいっていうところだったと思うんですけども、味が変わったかっていう観点と飲み込みやすくなったかっていう観点で、子どもたちが評価ボードに評価するんですが、なかなかちょっとそこが全部伝わったかってい

うと難しいなあという部分もちょっとあったんですけども、例えば、「じゃあ、1回目終わりました」のときに「2回もちょっと食べてみましょう」っていうときにピーマンを嫌いだけど選んだお子さんっていうのもいて、「苦い、苦い」って言っていたんだけど、「みずみずしい感じに変わったよ」とか、そんな予想外の反応みたいなものもあったらしくて、これはちょっと面白い授業だったなというふうに私は感じました。

最後「もっと食べたい」なんていう声も出て、二年生らしい素直な反応でしたけれども、きっとこの授業は食への興味っていうこととか、忘れられない内容だったろうなというふうに感じました。

また、養護教諭、栄養教諭の皆さん、そのほかの方もいらっしゃいましたが、先生同士の討議の場ではやっぱりいろいろな反省とか、「こうしたほうがよかった」っていうご意見もありましたけど、子どもと同じでなんかとても様々な感じ方を皆さんされて、それをきっと持ち帰っているいろんな形でこれからに生かしていかれるんだろうなということで、その様々な感じ方っていうのも大変面白いなというふうに感じました。例えば「給食にある食材を使ったほうがよかったんじゃない」とか、「30回じゃなくて、なくなるまでかんだほうがよかったんじゃないか」とかいろんな感じ方がありましたけれど、何かそこも含めて大変勉強になって、食ってということへの興味という意味では大きな授業だったんじゃないかなあというふうに感じました。

すみません、まとまらないですが以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

さらに続いていかがでしょうか。

野澤委員さん、お願いします。

○教育委員（野澤稔弘） 10月6日の日曜日に、座光寺小学校の運動会を見に行かせていただきました。

やっぱり人数の少ない運動会でしたので、基本的に徒競走が主体で、あとは表現というものでした。私たちが経験した中、棒倒しや騎馬戦やああいったものっていうのは、今やっぱりやることができなくなっているんだなと思って、つくづく「寂しいな」と思いながら見ていたんですけども。

表現の中で子どもたちがダンスをしているんですけど、16ビートの曲なんですね。放送で「手拍子をお願いします」って言われて、ついていけなくて、さすがに「早っ」と思いながら、でも子どもたちはきびきび踊っているので、「大したもんだな」と思って見ましたし、最後、赤い旗を持って、多分炎を表現している、そういう組体操だったんですけども、

おそらくそのいろんなステージがあったんですが、なんとなく人生を表現されたんじゃないかなというような、そんな感じを見て感じて、ちょっとうるっとくるようなシーンが最後あったかなというふうに思いました。

そうはいつでも当日の未明に結構、雨も降ってグラウンドもかなり悪い中、先生方、それからPTAの方々が雑巾持って水を吸って、ちょっと水たまりのところには砂を入れて、本当に時間ギリギリまでその整備をされていたんだっていうのが見受けられたので、「すごく皆さん素晴らしいなあ」と思いながら、私は見てただけだったので、「いや、これは本当に御苦労なさっているな」と思った次第です。

もう1点、先ほど三浦委員のほうからもありましたけど、美博さん、それから歴研さん、あとは図書館などが多分関係あると思うんですが、これからのいろいろ計画する上でどうしてもデジタル技術というのが非常に注目されてくると思うんですね。例えば、図書館で本をタブレットで見るというふうになると、読む本は読めるけれども、本の重量感は決して感じられないだろう。なんかそういうところの体験をうまく表現できるといいなって思いながら思っていました。

それから、美博さんだと作品を見て、例えば、それにスマホをかざすと、その説明がスマホに「ばあっ」と流れてくるということになれば、行く必要がないんですね。下手をすると。そうするとやはり行って何がという、やっぱりここは何かの体験が必要になってくるのかなと思いながら、感じています。やっぱり歴研さんなんかでもそういうところはあるのかなと思いながら。

で、収蔵のところで、「デジタル化を電子化して、どんどん収蔵していきましょう」とって一文がどこかにあったかなと思うんですけども、そういうことももちろん視野に入れているんですが、できるだけなんか今よく言われてる「コト消費」と言われるような、そういうものをうまく組み合わせていく必要がこれからあるのかなと思って、感じていた次第です。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

北澤職務代理、お願いします。

○教育長職務代理者（北澤正光） 3点になります。

まず1点目は、9月27日に竜東中学校の文化祭に行かせてもらいました。今年で第51回、実は去年の第50回も行かせていただいていたので、今年は51回目ということなので、サブテーマが「共に考え、共に創る、新たな文化祭」という位置づけをしていました。生徒数が少

ないので、保護者と地域の方が体育館の3分の2ぐらいを占めて、子どもたちが3分の1ぐらいというそんな状況でした。人数は少ないけれど、あの学校の特色でしょうか。本当に落ち着いた佇まいの中で声量をはっきりした挨拶とか、それから発言するときも必ず聞き手を配慮して、自分で位置を自主的に変えて聞き手の多いほうに向けて話すとかといったことが、本当に自然にできていて素晴らしいなと思って見させてもらいました。

あわせて花壇が伝統ですけども、PTA花壇とか同窓会花壇とか学年花壇とか、それで最後はメイン花壇というような形で、今年も非常に立派な花壇が作られていまして、これも素晴らしいなと思いました。

あと日常の授業の発展の発表ということでしたので、授業でつくった作品等も展示されていましたが、こちらも数は少ないですけど、本当に一つ一つが丁寧につくられた作品で感心しました。

2点目は、10月5日、山本小学校の150周年記念の式典に出させてもらいました。

こちらは地域の皆さんが非常に力を入れてくださって、実行委員会がつくられていました。すごいなあと思ったのは、その実行委員の皆さんが案内から進行まで、裏方を務めてくださっているのですけれど、子どもたちと学校の先生方を前面に出して表に出てくることをしない、そこがすごいなと思いました。学校、子どもたちを主役にしてきている。それを支える地域という立ち位置がきちっとされていて、本当に心を砕かれているなと思いました。中学生のボランティアも10名くらい参加して、受付ですとか、記念誌の販売の案内などを中学生がやっていました。

午前中ずっと見させていただいたのですが、「総合音楽会」という名前にして、ふるさと学習とか、生活科で学んだ地域のことを人形劇とか、オペラ風なものに自分たちで創作して発表していて、発表会内容が魅力いっぱいでした。一年間かけて和太鼓学んだ成果をオープンセレモニーで素晴らしい太鼓を披露したりして、非常に充実した催しになっていました。

来賓席にいた市議員さんとか、まちづくりの会長さんと、「学園構想でめざす特設教科というのと、今日発表されてるこういう内容はすごくつながるのではないか」というような話ができて、そういう面でも具体的に説得力のある中身でありがたいなと思って見てきました。

最後は、皆さんからもありましたが、教育課程研究協議会、竜丘小へ参加しました。社会科で60名近い参加者がありましたが、その単元の全体のテーマが野澤委員さんには特に興味があると思うのですけれど、「世界に通用するために日本の工業生産はどんな工夫をし

ていけばよいか」というテーマでした。

地域の業種の違う4つの会社を子どもたちが見学してきて、そこで子どもたちなりに感じてきた工夫、その工夫を出し合う中から全部で6つのポイントを絞り出します。具体的には、独自の最新技術を磨く、伝統を活かす、環境へ配慮する、品質の向上、人材の育成、資材を確保することという6つのポイントですが、4つの会社を見学した中から挙げてきたのですけれど、その中から最も大切だと思うものを各自1点に絞り込んで、今までの学習から根拠を挙げて、何でその1点に絞ったのかの理由を説明しあうという授業でした。それぞれ理由も考えて行くのですけれど、最後の結論はちょっと肩透かしみたいなのですが、子どもたちから「一つのポイントっていうのは難しい」と。実はさっき挙げた6つのポイントはみんなつながっているということに子どもたちが気づいてきて、そこで授業が終わるのですけれど、根拠をもって考えるというところが非常に生かされている。しかも会社見学もしてきているので、飯田市で進めているキャリア教育のこととか、これからの学園構想のところにもとてもつながっていく授業になっていたと思わせてもらいました。

2週間に3つの学校、どれも子どもが全面に出ている授業で、こういう授業を進めていくことが、自由進度学習というような名前こだわらなくてもいいから、この学園構想の柱になる学びとなっていくのではないかと改めて感じました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

また、ご質問等は後のところへお願いできればというふうに思います。

ありがとうございました。

（2）教育次長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） それでは続きまして「教育次長報告事項」のほうにまいりたいと思います。

教育次長のほう、報告ありましたらお願いいたします。

○教育次長（秦野高彦） ございません。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（3）学校教育課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） では続きまして「学校教育課関係報告事項」。

倉田学校教育課長補佐、お願いします。

○学校教育課長補佐兼教育企画係長（倉田 奨） それでは私のほうから、飯田市これからの学校のあり方審議会の審議状況について、本日すみません、資料をご用意しておりませんが、口頭にてお願いします。

前回、今年度第4回目になりますが、9月19日に第4回審議会を開催しておりまして、審議事項としては2件、「飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針～第1次～（案）」について、それから2点目としまして学校の適正規模についてご審議をいただいております。

1点目の「飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針～第1次～（案）」につきましては、内容は先ほど議案第57号でご説明をしたとおりですが、これまでのパブリックコメント、地域協議会の意見、そして審議会として意見を踏まえまして修正した内容の第1次方針案お示ししまして、この第1次方針案を決定していく方向について審議会としてご了承いただいております。

また、2点目の審議事項、学校の適正規模についてですが、今回資料としまして、これまでお示ししてきた資料に加筆したものをお示ししております。また、各学校ごとの現状の児童生徒数、学級数とともに将来の児童生徒数、学級数の見込みの資料をお示しております。

さらに、今後のこれから第2次方針の案を検討していくにあたって、飯田市としての学校の適正規模の目安についてもたたき台をお示ししております。

これまでの審議会の中でも既に触れておりますが、国や県では学校の適正規模について基準が示されているという状況でございますが、飯田市ではこういった学校の適正規模について定めたものはこれまでございませんでした。なので、今回たたき台という形で目安をお示ししまして、今後さらに議論を深めてまいりたいと考えております。

次回の審議会につきましては、11月29日を予定しておるところでございます。

私からは以上です。

○教育長（熊谷邦千加） 今の説明に対して、何かご発言がございましたらお願いします。

○学校教育課長補佐兼教育企画係長（倉田 奨） すみません、1点、説明を飛ばしました。

先ほど机前にお配りさせていただきましたが、第一次方針案決定にあたりまして、それを反映させてきたパブリックコメントでありますとか、地域協議会のご意見、これにつきまして、どのような回答をしておるかというもの、参考資料として今日お配りさせていただきました。

パブリックコメントの回答につきましては、本日公開するという事で飯田市の公式ウェブサイトに掲載をさせていただきますのと、市内の自治振興センター等にも資料を配付させていただきますいております。

また、地域協議会への回答につきましては、昨日付けで各地域協議会それぞれからいただいたご意見に対してこういう考え方をしているというものを紙面に回答させていただいております。今日はそれを一覧でまとめたものをご用意させていただきましたので、参考として御覧いただければと思います。

私からは以上です。

○教育長（熊谷邦千加） 今の説明につきまして、何かご発言がありましたらお願いします。

野澤委員さん。

○教育委員（野澤稔弘） 今、適正規模に関してちょっと質問なんですけども、それぞれの学園構想の9学園というか、それぞれにこのぐらいじゃないかというふうに示されたのか、それとも一般的にこんなところが主としてこのくらいって示されたのか、どちらですか。

○教育長（熊谷邦千加） 倉田補佐。

○学校教育課長補佐兼教育企画係長（倉田 奨） 今回お示しをしました目安についてですが、学校ごとに学級数で何学級以上が必要な学級数の目安になるか、また望ましい学級数としてはどれくらいの学級数が望ましいかにつきましては、そういった目安でございます。なので、学園ごとということではなくて、一つ一つの学校ごとに学級数の目安をお示しして、それが適正な規模ではないかというふうなたたき台にしておるということでございます。

○教育長（熊谷邦千加） 具体的に説明してください。

○学校教育課長補佐兼教育企画係長（倉田 奨） はい、失礼しました。

今回、飯田市としての目安としてお示しをしましたが、小学校につきましては、必要な学級数の目安として6学級以上、全学年で6学級以上ですので、1学年で言えば1学級以上という形になってまいります。

それから望ましい学級の目安としては、12学級以上というような形を目安としてお示ししております。

また、中学校につきましては、必要な学級数の目安については3学級以上、望ましい学級数の目安は6学級以上というような形でお示しをしました。

小学校については、文部科学省が示した国の基準と同じというような形になりますが、中学校については、中学校は文部科学省の適正配置に関する手引きでは必要な学級数は6学級以上、望ましい学級数は9学級以上ということで、それよりも飯田市では若干小さい

形での適正でもないかということで、今回目安としてお示しをしております。

○教育委員（野澤稔弘） ありがとうございます。

○教育長（熊谷邦千加） 野澤委員さん、よろしいですか。

○教育委員（野澤稔弘） はい、ありがとうございます。

○教育長（熊谷邦千加） さらにいかがでしょうか。

では、ご発言がないようでしたら次に進みたいと思います。

三浦委員さん。

○教育委員（三浦弥生） この国だとか県とか言っているそういった適正規模というもの、飯田市はそれに準じて規模をつくるということなんですが、あくまでもそれが子どもたちの人数といったところが根拠なのか。これだけの人数がいると学びが深まるであるとか、子どもたちの成長発達だとか教育にとってそういうのがいいというもとの根拠があるから、そういった規模にしているのか、ただ人数的なことだけで言っている、その根拠っていうものは何をおかれているんですか。

○教育長（熊谷邦千加） 倉田補佐。

○学校教育課長補佐兼教育企画係長（倉田 奨） 今回、人数のところについては、目安の中に入れておりませんが、あくまで学級数で今回は見ております。というのは、学級数については、児童生徒数の人数によって教職員の配置配当が県のほうで基準が定められてくるということもありまして、なので児童生徒数、人数のほうで仮にやるとしても、それによって教員の配置が飯田市独自でできるわけではないということになりますので、学級数で今回は考えておりますが。

ただ、考え方としましては、児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力しあい、切磋琢磨することを通じて、思考力・表現力・判断力・問題解決能力を育むというのが、そういうようなところが社会性、規範意識を身につけるといって、そういうところが重要という。これは国のほうで示されている適正配置の手引きの考え方と一緒にすけれども、ある程度の集団の中で育つことによって、そういったところで身につける力があるということで、ある程度の集団の規模が必要であるという考え方をしております。

また、それとともに、教職員集団の部分につきましても、ある程度の学校規模がないと、バランスの取れた教職員集団を組織しにくいというところがありますので、そういった部分も含めて、このくらいの規模があれば学校としては適正な規模が維持できるだろうという考え方をしておるといってでございます。

○教育長（熊谷邦千加） 補足すると複式を避ける最低基準というところですか。

○教育委員（三浦弥生） はい、ありがとうございます。

○教育長（熊谷邦千加） ほか、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

（４）生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） それでは（４）の「生涯学習・スポーツ課関係報告事項」をお願いします。

後藤生涯学習・スポーツ課長。

○生涯学習・スポーツ課長（後藤武志） それではお手元にお配りさせていただきました、「わが家の結いタイム」三行詩コンクールの作品審査について、お願いをさせていただきます。

今年度も市内の小中学校を中心に1,091件の応募をいただいております。大変恐縮ではございますが、教育委員の皆様にも審査をお願いしたいということでございます。

それぞれ審査部門が5部門ございますので、各部門について一席、二席、三席の3作品をお選びいただきたいということになります。

今、御覧になっていただいている資料の2ページ目、裏面でございますが、審査用の二次元コードがございますので、大変恐縮ではございますが、スマートフォン等でこれを読み取っていただいて、投票をお願いできればということでございます。

作品でございますけれども、その後、資料9ページほど付けさせていただきます。応募があった作品を忠実に入力させていただきます。

見ていただきますと、例えば③の小学校四～六年生の部の9番のところの作品を御覧いただくと、「ママからの『いつてらっしゃい！！』で 元気になれる 朝のしゅかん」って書いてあるんですけど、これ多分「しゅんかん」だろうとは思いますが、こういった部分もし選ばれましたら、本人と確認させていただいて、これ「しゅんかん」だよってということであれば、修正をさせていただいて、正規の作品とさせていただきます、ほかにももしそういったところがありましたら、正しいのきっとこれなんだろうなっていうことを推測していただきまして、投票をお願いできればということでよろしくお願いいたします。

続きまして、風越山トレイルマラソン大会についてご報告をさせていただきます。

先ほど教育長からのご報告にもありましたとおり、雲一つない本当に秋晴れのいい天気の中、開催をすることができました。

当日ですけれども、お申込み 454 人に対しまして、423 人の方にご参加をいただくことができました。

大会の特記事項として、70 回記念大会としてゲストランナーの招聘や風越山を愛する会の皆様にご協力いただいて、70 回の歩みの展示を行ったほか、SNS 映えする写真スポットの設置や、飯田風越高校の皆さんとの風越連携ということで書道パフォーマンスなどを行っております。

あと大会の運営を支えていただいたボランティア等のスタッフの総数でございますけれども、176 人の方にご協力をいただいております。

あと大会の記録につきましては、資料の裏面にあるとおりでございますので御覧になっていただければと思います。

それから資料の一番最後のページに、当日の大会の様子を写真に撮ったもの載せさせていただいておりますので、このような形でできましたということでご報告をさせていただきます。

説明は以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） この件につきまして、何かご発言ございましたらお願いいたします。

ちょっと私の報告では「400 名弱」って申し上げましたが、途中経過で把握していたので 423 名ということですみません。認識が間違っておりましたので修正をお願いいたします。

あと、わが家の結いタイムのほうは、教育委員さんたちにこの資料にあるところから審査をしていただくということで、10 月 23 日までということでお願ひします。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

（5）文化財保護活用課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） それでは続きまして（5）「文化財保護活用課関係報告事項」。

○文化財保護活用課長兼考古博物館長（下平博行） ございません。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（6）公民館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 「公民館関係報告事項」。

上沼公民館副館長。

○市公民館副館長（上沼昭彦） 1 点お願いいたします。

皆様のお手元に高校生講座カンボジアスタディツアーの募集のチラシを配付させていただきました。今年度の高校生講座ですが、前期に東北スタディツアーを実施し、後期にカンボジアのスタディツアーを計画しております。

この高校生講座ですが、高校生たちに広い視点、グローバルな視点を持ちながら、自身の将来、また地域の将来について考え行動できる、地域の将来を担う若者になってほしいとそのような願い、目的を持って実施するものでございます。

カンボジアスタディツアーですが、学習の組立てとして、まず自分たちの住む地域のことを知る機会としてふるさと学習を事前に行いまして、3月の春休み、予定では3月20日から26日にかけて、現地カンボジアでの現地学習を予定しております。帰国後、振り返りの学習を行いまして、5月ぐらいに報告会をという予定でございます。

現在、参加者を募集しております。11月4日に開講式を行いまして、以降学習を進めていきたいと考えています。

公民館からは以上であります。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

ただいまの報告につきまして、何かご発言がありましたらよろしくお願ひします。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） では、次に進みます。

（7）文化会館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 「文化会館関係報告事項」。

筒井文化会館館長。

○文化会館館長兼新文化会館整備室長（筒井文彦） それでは文化会館から、アからオの報告プラス本日追加で1枚チラシを配らせていただきましたので、全部で6件ご案内させていただきますと思います。

まず、順番で、「おいでなんしょ寄席」についてでございます。カラーのチラシで御覧いただきたいと思ひます。

ご存じかと思ひますけれども、飯田市出身の橘 左近師匠、寄席文字の師匠でありますけれども、この方の企画でずっと市民落語鑑賞会をやっておりまして、残念ながら昨年、左近師匠はお亡くなりになりまして、今回は追善という形で第45回の市民落語鑑賞会を開催します。

御覧のとおり、4人の師匠の方にお越しいただくということで、今や落語協会の重鎮で

ある林家正蔵師匠をはじめ、今回新たに若手抜擢真打ちということで、お二人の方、非常に若くして真打ちになられた師匠の方お二人いらっしゃいます。既にチケットを販売しております、発売日当日も朝早朝から1時間2時間待って買っていただいた方もいらっしゃいまして、おかげさまで1階席はおおむね完売とされておりますけれども、まだ2階席残っておりますので、ぜひお求めいただければと思います。

続きまして、イの第38回伊那谷文化芸術祭についてでございます。

こちらは恒例となっておりますけれども、11月の日曜日ごとに飯田文化会館・人形劇場を会場に開催しております舞台芸術の文化芸術祭でございます。

中を見ていただきますと、日にちごとに例えば器楽・邦楽ですとか、合唱、ダンス・舞踊というような形で、地元の小学生、中学生、高校生も含めて、様々な団体が出演いただけるということでもあります。

コロナ禍を経て、徐々に参加団体も少し上向いてきたというところでございます。

もう1枚最後のページめくっていただきますと、今年度バンドポップスの部で、こちらのほう、昨年はなかったわけなんですけれども、今年度は飯田短期大学の軽音部をはじめ、9団体の皆さんに出演いただくということで、こちら人形劇場でありますけれども、演劇・人形劇もございまして、こちらあわせてご観覧いただければと思います。

入場料は、4日間共通400円の入場券を販売しております。当日500円の当日券も販売しておりますので、ぜひ御覧いただければと思います。

教育委員の皆さんには、本日封書で改めて別のご案内しておりますので、そちらのほうを御覧いただければと思います。

続きまして、次のご案内であります。第42回伊那人形芝居公演でございます。

こちらは本日、教育長からも今田人形の浄瑠璃のお話をいただきましたけれども、毎年この伊那谷の人形芝居公演ということで、11月の日曜日に会場はおおむね最近のところで行きますと黒田人形浄瑠璃伝承館で行っております。

1点修正があります。出演の団体の中で高陵中学校黒田人形部が、ちょっと学校の行事の都合で急遽出演ができないとなっておりますけれども、ここに書いてある人形座が出演ということでございます。

伊那谷には4座が、人形浄瑠璃として今も活動していただいておりますので、こういったことを定期的に公演してください中で、この伝統人形浄瑠璃を傳承し、後継者に伝えていくということで、文化会館も教育委員会として協力をしておるというものでございます。

続きまして、エの人形劇の10月定期公演、すみません、こちらちょっと公演が終わって

おりますけれども、定期公演としてこういった公演を行っているというご案内でございます。

NPOのいいだ人形劇センターが、地元の人形劇団を育成するというので、人形劇講座の初級コースを設けておりますけれども、そこで練習した皆さんが公演をしていただいたというものでございます。

続いて世界の劇場9というチェコの人形劇です。犬の人形が中央に写真で載っておるチラシでございます。

こちらにもNPO法人いいだ人形劇センターと飯田文化会館の主催となりまして、「世界の劇場」というテーマで、コロナ禍ではなかなかできなかったんですけども、コロナ禍を経て今回9回目ということで行うものでございます。

11月29日・30日ということで、実はこれは飯田だけではなくて、例えば東京のチェコセンターですとか、京都ですとか、そういったほかの都市も公演の会場になっておりますけれども、飯田では2日間にかけて行うということでございますので、お時間のつく方はぜひこちら、なかなかチェコの人形劇を国内で見るという機会は少ないと思いますけれども、ぜひこういった機会に御覧いただければというものでございます。

最後に追加で配布させていただきました。キーウ・クラシック・バレエ飯田公演のスペシャルトークイベントのチラシでございます。

こちらは急遽決まったものでございまして、前回12月のチラシを配付させていただきましたけれども、このプリンシパルの長澤美絵さんが飯田に縁があるお話をしましたけれども、お母様が飯田市出身ということで、この企画会社と交渉していたところ、10月20日であればゲストとして飯田に日帰りに来ていただけるということで、であれば、飯田のお子さんたち、またはバレエに関心のある方にこの長澤さんのこのバレエに対する思いを語っていただくとともに、簡単なワークショップを行うということで、急遽スペシャルトークイベントを企画したものでございます。

当日、選挙等もあつたり獅子舞フェスティバルがあつたりということで、非常にイベントがたくさんの日ではありますけれども、この12月の公演に向けて文化会館としてもしっかり実行委員会と一緒に盛り上げていきたいと思っております。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

ただいまの報告につきまして、ご発言がございましたらお願いいたします。

（発言する者なし）

(8) 図書館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） では続いて（8）「図書館関係報告事項」。

瀧本館長、お願いします。

○中央図書館長（瀧本明子） 図書館から2点お願いいたします。

まず「山の上の火」というチラシを御覧ください。11月5日に「電子図書館と電子書籍の現状と、こどもの読書について」の講演会を行います。電子書籍の普及が進む長野県内で全ての市町村が参加して共同で「デジとしょ信州」というものを運営して利用しています。飯田市では、こどもの読書については、「デジとしょ信州」を使っただけの読書推進はしていませんが、県内では積極的に使用している自治体もあります。

この講習会では、電子書籍はどんな特徴があるのか、こどもの読書にとって電子書籍と紙の本ではどんな違いがあるのかなどを、研究事例などを踏まえながらお話いただきます。下伊那図書館協会の研修会ということなので、主に公共図書館や学校図書館の方が対象ですけれども、一般の方もご参加いただけます。

2点目もこどもの読書に関する講演会です。

11月9日に児童文学作家の杉山 亮さんにおいでいただいて、子どもが本を楽しむようになる方法や物語読むことで得られることについてお話いただきます。

吹き出しのところにも書いてありますけれども、「図書館で面白い本をたくさん揃えたら子どもは集まってくるのか、違うということで、本を読み重ねてない子どもはこの本面白そうという勘が育っていないので、本を見ても読みたいと思わない。では、どうしたら読みたいと思う気持ちやその面白いと思う勘が育つのか」というお話もしていただけるというふうに思います。

午後の講演会は、大人の方が対象ですけれども、午前中はお話聞くことの楽しさを体験してもらうための、子どもたちも参加できる杉山さんによる「ものがたりライブ」を行います。

多くの方にご参加いただきたいと思いますと考えております。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ただいまの説明につきまして、何かがご発言ございましたらお願いします。

（発言する者なし）

(9) 美術博物館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） では（9）番の「美術博物館関係報告事項」。

榎村美博副館長、お願いします。

○美術博物館副館長（榎村洋介） 美術博物館からは、びはくにゅーす 11 月号をお配りしております。

今行っております菱田春草生誕 150 周年記念特別展につきましては、11 月 4 日まででございます。1 カ月間と短い期間であつという間に期間が過ぎてしまいますので、忘れることのないように来ていただければというふうに思っております。

それから自然トピック展示なんですけれども「そして化石は『標本』になるー近藤恭一がみつけた富草の海ー」ということで先ほどの教育表彰のときに下伊那教育会の方の紹介がありましたけれども、そのときは近藤恭一コレクションを美術博物館にご寄贈いただきました表彰でございました。下伊那を中心とした化石の標本、貴重な化石のほうご寄贈いただいたということでございまして、その標本を見ていただく展示ということになっております。

それから春草展覧会が終わりました後は、第 24 回「現代の創造展ー南信州のアートを共に創るー」ということで、今日はチラシのほうをお配りさせていただきました。地元の方々に日本画・洋画・版画・彫刻・工芸・書・コンテンポラリー、様々な部門で活動されて創作していらっしゃる作家の方々の作品を展示いたしますので、こちらのほうも御覧いただければと思います。

今日、皆さんには封筒がございますけれども、そちらのほうに現代の創造展の中で行います懇親会の案内が入っておりますので、またお越しいただければと思います。

それからプラネタリウムですけれども、特別公演がございます。11 月 23 日は「ぐっすりプラ寝たリウム」ということで、普段はプラネタリウムの番組はなるべく寝ていただかないようにという案内をしておるんですが、この日はそこでぐっすりと休んでいただいてもかまわないということでございますので、日頃のお疲れを癒やしていただければというふうに思います。

それから 11 月 23 日・24 日には、本館のオリジナル番組の「遠山霜月祭」を上映しまして、当館学芸員による見どころ解説を行いますので、これから 12 月に入りますと遠山霜月祭がいろんな神社で行われるわけですけれども、その予習として活用していただければということをお思います。

裏側になりますが、現代の創造展の中では、ギャラリートーク、作家の方々が実際の自

分の作品の説明をしていただける機会がございます。

それと中学生一日学芸員ということで、中学生の方が自分たちで一番印象に残った作品について、どんなことを思ったのかという、皆さんの前で発表するような会も計画していますので、こちらのほうも御覧いただければと思います。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） ただいまの報告につきまして、何かご発言がございましたらお願いいたします。

（発言する者なし）

（10）歴史研究所関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続いて（10）「歴史研究所関係報告事項」。

牧内副所長、お願いします。

○歴史研究所副所長（牧内 功） それでは、本日お配りしました歴研ニュース 132 号を御覧いただければと思います。

表紙につきましては、9月7日・8日に開催しました本年度の地域史研究集会の報告記事を掲載してございます。

今回、文化財保護活用課と共催で行いましたが、1日目は講演2件と報告2件、2日目は考古博物館と座光寺の恒川官衙遺跡の現地見学会を行いまして、2日間延べ137名の参加いただいております。

開いた2ページの上段ですけれども、地域史研究集会の開会式にあわせて表彰を行いました本年度の飯田歴研賞の受賞者のコメントを掲載してございます。

下段につきましては、今年度、旧小笠原家書院が築400年を迎えるということで、それにあわせまして小笠原長巨、伊豆木の地に1,010石を与えられた知行割りの資料紹介しております。

3ページ上段につきましては、地域史ゼミの紹介と募集。

下段につきましては、6月に実施しました中学生への職場体験の様子を掲載させていただいております。

最終4ページにつきましては、11月30日に飯田市役所で開催します飯田アカデミア第105講座についてございまして、「歴史資料散逸の要因と救い方」と題しまして、講師に国立研究資料館の西村慎太郎さんを迎えて、2つのテーマで講義をしてもらう予定でございます。

中段以降につきましては、定例の研究会と歴研ゼミの10月11月の開催日程についてそれぞれ掲載してございます。時間があるときにまたお目通しいただければと思います。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） ただいまの報告につきまして、ご発言ございましたらお願いいたします。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい。

その他報告事項、飛ばしてまいりましたけれども、元に戻って言いそびれたこと、ご質問しそびれたことがありましたらお出しただければと思いますがいかがでしょうか。

福澤学校教育課長。

○学校教育課長（福澤好晃） 1点、学校教育課から報告事項で、報告ではございませんが、ご報告を申し上げます。

今月の10月1日から先ほど林委員さんから給食残渣のお話もございましたけれども、市内の小中学校、あるいは調理場で出ます給食残渣につきましては、今までは各場所で、生ごみ処理機等で処理をしておりましたが、その機器の老朽化が著るので、今月の10月1日から業者さんが毎日回収をし、下久堅の堆肥センターで搬入し堆肥化をしてということに処理方法が変更になっておりますので、ご承知いただければと思います。

また、今、農業課が進めております農作物の地域総合認証制度、地産地消ということで、堆肥化されたものがまた農家で使われ、やがてそれが学校給食で食材として使用する、地域内循環ということもあわせて目指しており、その取組としてもスタートしております。よろしくお願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） 今のことにつきまして、何かご発言ございますか。

ちょっと私の報告事項に入れなかったんですが、教育課程研究協議会で下久堅小学校へ行ってきましたけど、今のごみ処理の機械がなくなるということで、残食減らすために調理場へ行って調理場の工夫をみんなに伝えると。特に竜峡調理場の担当している学校に伝える、つまり、小学生が中学生に伝えるっていうこともあり、そこへ挑戦している取組の授業公開がありました。

結構学校現場ではそういった取組をして、どうやったらいいのかっていうことも考える機会になっているのかなと思ったり、教育課程としてはそういう実際に体験を交えながらの授業が増えていて、非常にいいなという部分もあるかなと思っているところでございます。

そのほか特に言い残したこと、聞き残したようなことはございますか。

よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

- 教育長（熊谷邦千加） 教育委員さんたちから貴重な報告をいただきましたけれども、ちょっと質問の時間が十分取れずに申し訳ございませんでした。

(11) 今後の日程について

- 教育長（熊谷邦千加） それでは(11)「今後の日程について」、11月の説明をお願いいたします。

松下学校教育課長補佐。

- 学校教育課長補佐兼総務係長（松下弘毅） それではレジュメのほう、2ページの下、(11)の今後の日程を見ていただきたいと思います。

教育長、教育長職務代理人、教育委員の皆さんへは、座席へ各研修の要項を配付しておりますけれども、10月25日の金曜日に令和6年度第67回長野県市町村教育委員会研究総会ということで諏訪大会が開催になります。野澤委員、欠席ということで伺っておりますけれども、この出発の時間はまだ報告しておりませんので、改めて電子メールのほうで出発時間をお伝えし、参加される分科会についてもご案内していきたいと思っておりますので、後日連絡をさせていただきます。

11月7日木曜日ですけれども、飯伊市町村教育委員会連絡協議会の秋季研修会、こちら高森町のほうで開催されます。乗り合わせでお願いしたいという案内がありますので、こちらのほうも出発時間をこれに合わせていただきまして、連絡をしたいと思っております。欠席される方は、また連絡いただきたいと思います。

11月12日火曜日に教育委員会の11月の定例会をお願いいたします。3時から予定し、その前段に協議会をお願いいたします。

3ページ目のほうにわたりまして、教育委員会の学校訪問、こちらのほう第1回の10月10日のほうが済んでおりますが、以降10月21日以降、まだ9回までございますので、ご出席をお願いいたします。

オということで11月28日は、第4回飯田市校長会があります。こちらのほうは教育長と教育長職務代理人のご出席をお願いいたします。

日程につきましては以上です。よろしく申し上げます。

- 教育長（熊谷邦千加） 日程につきましては、何かご発言ございましたらお願いをいたします。

野澤委員。

○教育委員（野澤稔弘） お話あったとおり、10月25日は欠席させていただきます。すみません。

お願いします。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

11月7日は、高森中学校の体育館で発表を聞く関係で上履きがいるということですので、
またお持ちください。

ほかよろしいでしょうか。

（発言する者なし）

日程第10 閉会

○教育長（熊谷邦千加） それでは、日程の第10。

以上をもちまして、本日の日程は全て終了いたしました。

日程のこと以外で何かご発言ございますでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） 以上をもちまして閉会といたします。

お疲れ様でした。

閉 会 午後 5時 10分